

**2025年7月(第5版)
*2022年7月(第4版)

承認番号:22800BZX00278000

機械器具51 医療用嘴管及び体液誘導管
高度管理医療機器 中心循環系血管内超音波カテーテル 70289004
(非中心循環系血管内超音波カテーテル 70289003)

オプティクロス 18 超音波イメージングカテーテル

再使用禁止

【警告】

1. 使用方法

- (1) 本品を血管内に挿入する前に、カテーテルやフラッシュ用の附属品から空気が確実に除去されていることを必ず確認すること。[カテーテルやフラッシュ用の附属品に空気が残っていると、患者に傷害を与えること、死亡につながることがある。]

【禁忌・禁止】

1. 適用対象(患者)

- (1) 胎児のイメージングには使用しないこと。(詳細はトラック1に対する音響出力レポート表を参照のこと。)

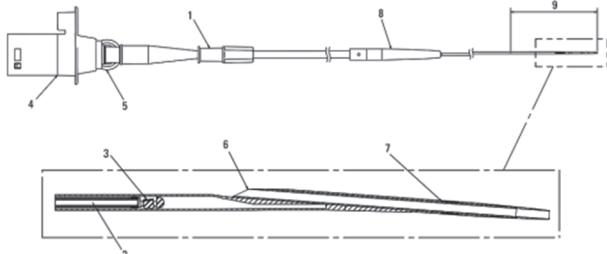
2. 使用方法

- (1) 再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

1. 形状・構造

<外観図>



- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. テレスコープ・シャフト | 6. ガイドワイヤエグジットポート |
| 2. イメージングコア | 7. エックス線不透過性マーカーバンド |
| 3. トランスデューサー | 8. ディスタルストレインリーフ |
| 4. ハブ | 9. 親水性コーティング |
| 5. フラッシュポート・バルブ | |

- (1) 本品は滅菌済みのイメージングカテーテルであり、次の2つのメインアセンブリで構成されている。
- ① イメージングコア部
 - ② イメージングカテーテル部
- (2) イメージングコアは高トルクの柔軟な回転式ドライブケーブルからなり、先端に放射状に観察可能な30MHzの超音波トランスマッサがついている。本体は近位端にある電子・機械式コネクタ・インターフェースを介して、モータードライブ・ユニット/装置(MDU5プラス)に接続される。MDU5プラスとカテーテルの間のインターフェースは、一体化した機械駆動ソケットと電気接続部から構成されている。
- (3) イメージングカテーテル本体は3つの部分から成っている。
- ① ディスタルシャフト
 - ② プロキシマルシャフト

③ テレスコープ部

- (4) テレスコープ部はガイディングカテーテルの外側にくるため、ディスタルイメージングウンドウルーメンとプロキシマルシャフトルーメンの部分がカテーテルの「有効長」部分となる。
- (5) カテーテル本体のイメージングウンドウには、遠位端から1.6cmの箇所にガイドワイヤエグジットポートが付いている。エックス線不透過性(RO)マーカーバンドが、遠位端から0.5cmの位置でイメージングカテーテルに埋め込まれている。さらに、シャフトの遠位端から90cm及び100cmの箇所には、ガイディングカテーテルの遠位端とイメージングカテーテルの相対的な位置を予測できるように挿入深度マーカーが付いている。プロキシマルシャフトはテレスコープ部にディスタルストレインリーフを介して取り付けられている。
- (6) このテレスコープのシャフト部によって、イメージングコアを前後に15cm直線的に動かすことができる。トランスデューサーは、この動きに対応してガイドワイヤエグジットポートの近位端とディスタルイメージングウンドウルーメンの近位端の間を移動する。テレスコープ部には病変長を予測するためのプロキシマルマーカーが1cm刻みで付いている。
- (7) 一方向バルブ付きのフラッシュポートは、フラッシュを実行し、またフラッシュされた状態を維持するために使用する。使用する前に、カテーテルをヘパリン加生理食塩液でフラッシュする必要がある。これによって超音波イメージングを行う上で必要な音響結合媒体が得られる。一方向チェックバルブは、使用中、カテーテル内に生理食塩液を保持する働きをする。
- (8) 附属品として、以下のものがある。
- ・ フラッシュ用シリジ
 - ・ フラッシュ用ストップcock
 - ・ フラッシュ用延長チューブ
 - ・ 減菌バッジ(非医療機器)

** 2. 主な原材料

本体(超音波イメージングカテーテル)

ポリビニルピロリドン／ネオベンチルグリコールジアクリレート、ポリアミド、ポリエーテルエーテルケトン、ホットスタンプホワイトホイル、ポリエチレン、UVアクリレート系接着剤、ポリカーボネート／シリコーン、ポリエーテルエーテルケトン(着色剤添加)、インク、ポリエーテルブロックアミド、シリコーン、ポリカーボネート、シアノアクリレート系接着剤、アクリルウレタン系接着剤、スズ／銀／銅合金、エチレンプロピレン／ポリエステル／銅、ポリアリールエーテルケトン、銀配合エポキシ系接着剤、エチレンプロピレンジエンゴム、ポリエステル、シリコーンゴム、305ステンレス鋼、ステンレス鋼、ステンレス鋼／金／ニッケル、スズ／銀合金、チタン酸ジルコニア酸鉛／エポキシバッキングマテリアル／銀エポキシ、エポキシ系接着剤

附属品

- ・ フラッシュ用シリジ
- ・ シリコーンゴム、ポリカーボネート、ポリイソプレン、ポリプロピレ

ン、シリコーン、アクリロニトリルブタジエンスチレン
 ・フラッシュ用ストップコック
 ポリカーボネート、ポリエチレン
 ・フラッシュ用延長チューブ
 ポリウレタン、メチルメタクリレートアクリロニトリルブタジエンスチレンコポリマー

3.原理

本品は併用するイメージングシステムに接続し、超音波反射法により画像を表示するメカニカルスキャン方式の血管内超音波カテーテルである。本品のトランスデューサから発信された超音波パルスが生体組織に反射し、反射したパルスを本品トランスデューサが受信する。イメージングシステムは時間の経過から深度を、また、反射パルスの振幅をグレースケールの輝度変調により、角度・距離・輝度の要素を高速演算し、Bモード断層画像を構築することができる。

【使用目的又は効果】

本品は、血管内部に超音波を当てて画像診断を行うための超音波トランスデューサが内蔵されたイメージングカテーテルであり、腸骨動脈、腎動脈、頸動脈を含む末梢血管に使用する（頭蓋内動脈を除く）。

【使用方法等】

本品と併用する弊社が製造販売する超音波画像診断装置（モータードライブ・ユニット、オートマチックブルバックスレッドを含む）を示す。

併用医療機器	販売名	認証番号
i-Lab カートシステム		219ABBZX00238000
i-Lab インストールシステム		219ABBZX00239000
AVVIGOシステム		303ABBZX00008000

推奨ガイドワイヤ径0.46mm(0.018inch)

1.使用前の準備

- (1) 超音波画像診断装置及びモータードライブ・ユニットをセットアップする。
- (2) 以降の手順については無菌的に操作する。
- (3) イメージングカテーテル（以下、本品）及び附属品を無菌的に滅菌包装から取り出す。可動式のイメージングコアを、テレスコープシャフトを介して近位部の位置まで確実に後方に引き戻す。イメージングコアを引き戻す際に過度な力で引っ張らないこと。
- (4) 3 cm³ (cc)及び10 cm³ (cc)のフラッシュ用シリジ（以下、シリジとする）をヘパリン加生理食塩液で満たす。両方のシリジをフラッシュ用ストップコック（以下、ストップコックとする）に接続した後に、これらをフラッシュ用延長チューブ（以下、延長チューブとする）に接続する。シリジ内のヘパリン加生理食塩液をフラッシュすることで確実にアセンブリ（シリジ、ストップコック、延長チューブ）から完全に空気を抜く。本品のハブ上のバルブに、延長チューブを接続する。10 cm³ (cc)のシリジは、3 cm³ (cc)のシリジを補充するためのリザーバとして使用する。
- (5) 1回に3 cm³ (cc)の生理食塩液を用いて、準備台の上で本品を連続して2回フラッシュする。この時、過剰な圧力を加えないこと。本品を処置台の上に移す。本品から空気が完全に除去されていることを確認する。
- (6) 近位部ハブとモータードライブ・ユニットの配置用スロットを合わせるようにして、本品をモータードライブ・ユニットに接続する。本品のハブとモータードライブ・ユニットが完全に接続される位置まで押し込む。ハブがモータードライブ・ユニットの中に完全に接続されていることを確認するために、ハブを穩やかに引く。カテーテルの識別が正しくない、又はできない場合は、【使用方法等】6.トラブルシューティングの(3)を参照

すること。

- (7) 本品を滅菌済みのディスペンサー／コイルから抜く。イメージングコアが後方に十分に引き戻された位置にあり、かつ本品がきつく巻かれていないと確認する。モータードライブ・ユニットを起動し、部分的に明るい同心円状のパターンがモニターに描出されることを観察して、本品が正しく機能していることを確認する。
- (8) モータードライブ・ユニットを使用してイメージングを行っている間は、イメージングコアをテレスコープシャフトを介して十分に先端の位置に進めること。本品内のイメージングコアを進めるためにテレスコープを使用する前には、モータードライブ・ユニットの電源は必ずオンの状態にしておくこと。
- (9) モータードライブ・ユニットの電源をオフにする。モータードライブ・ユニットの電源をオフにしたままで、本品を元の位置まで引き戻す。
- (10) 必要に応じて10 cm³ (cc)のシリジを満たし、システムに空気が入らないよう注意しながら再びストップコックに取り付ける。
- (11) 本品内に空気が入るのを防ぐため、本品の配置前にイメージングコアを引き戻さないこと。本品を配置する前にイメージングコアを少しでも引き戻すと、追加のフラッシュが必要となる。オートマチックブルバックスレッドの使用が必要な場合は、本品をオートマチックブルバックスレッドに取り付けた状態でイメージングコアを完全に先端の位置に保ち、もう一度本品をフラッシュすること。
- イメージングコアが先端にある状態でフラッシュするのが困難な場合には、手動でイメージングコアを3~5mm引き戻してから再度フラッシュすること。その後、イメージングコアを手動で元のとおりに完全に先端まで送り込む。

2.滅菌パックの準備

- (1) 併用する超音波画像診断装置の添付文書を参照し、滅菌パックの準備を行う。

3.ガイディングカテーテルの配置

- (1) 標準的な手法に従って、シースイントロデューサ挿入部位の準備を行う。
- (2) 本品を挿入する前に、インターベンション手技での標準的な手法を用いて、患者への準備が確実に行われていることを確認する。
- (3) シースイントロデューサ又はガイディングカテーテルとYアダプタを配置する。ガイドワイヤを挿入し、目的の部位まで進める。

4.ガイディングカテーテル内への本品の挿入

- (1) 親水性コーティング部位を活性化するため、本品のシース先端から23cmまでの部分をヘパリン加生理食塩液で湿らすこと。本品にガイドワイヤを挿入する前に、必ずガイドワイヤをヘパリン加生理食塩液で拭くこと。
- (2) 本品の遠位端からガイドワイヤを挿入する。ガイドワイヤエグジットポートからガイドワイヤが外に出て来るまで、本品内にガイドワイヤを進めていく。先端部付近がより硬くなっているガイドワイヤの使用を推奨する。
- (3) シースイントロデューサ又はガイディングカテーテルの中へ本品を進める。対応するガイディングカテーテルが使用される場合、引き続き挿入深度マーカの位置まで本品を進める。ガイディングカテーテルのYアダプタ上の止血バルブを締める。ただし、液体／血液の漏れが生じない程度にとどめること。止血バルブを過度に締め付けるとドライブケーブルの回転を拘束するため、画像が歪む場合がある。
- (4) モータードライブ・ユニットを起動し、本品が画像を生成しているか確認する。画像がちらつく場合は、本品内に空気が残存している可能性があるため、モータードライブ・ユニットをオンにして、本品を再度フラッシュすること。この際、過度な圧力をかけないこと。画像は、1つの明るい同心円として表示される。安定した画像を確認した後、イメージングを中止す

るためにモータドライブ・ユニットのイメージングボタンを押す。

5. 本品の配置とイメージング

- (1) モータドライブ・ユニットが「オフ」の状態で、エックス線透視下で本品の先端マーカが血管／病変部の領域を超えて最低3cm進むまでガイドワイヤに沿って本品を送り込む。
- (2) 観察目標領域のイメージングを行うために、本品とガイドワイヤを固定させた状態でモータドライブ・ユニットのスイッチを「オン」にし、手動でイメージングコアを移動距離(最大15cm)又はオプションのオートマチックブルバックスレッドを用いてイメージングコアを移動距離(最大10cm)ゆっくりと引き戻す。必要に応じて、イメージングコアを前後に動かすこと。
- (3) イメージングが終了したら、イメージングコアを十分に前進させ、モータドライブ・ユニットを停止する。ガイドワイヤの位置を保持しながら、本品を抜去する。
- (4) 本品を再挿入する場合は、【使用方法等】1. 使用前の準備の項に従って本品を再び準備し、モータドライブ・ユニット及びオートマチックブルバックスレッド(使用する場合)を準備しておく。
- (5) 本品を複数回挿入する必要がある場合は、本品の滅菌性を損なうのを防ぐために、本品をモータドライブ・ユニットから外してはならない。
- (6) 再挿入する前にガイドワイヤエグジットポートを点検し、抜去中に損傷が生じていないことを確認する。

6. ブラッシュ

- (1) 自動ブルバックを行っていないにもかかわらず、本品からノイズが発生する場合、モータドライブ・ユニットの接続を確認すること。滅菌バッグの中にハブを保持しつつ、モータドライブ・ユニットから本品のハブを引き抜き、モータドライブ・ユニットを起動してブレードを回転させる。イメージングをストップさせると、初回とは異なる位置にて静止する為、本品の装着が容易になる場合がある。その後、慎重に本品を再接続する。
- (2) イメージングコアを前進させる際に、テレスコープ部分からの振動がある場合、イメージングを停止すること。目視によりイメージングコアにもつれないかどうかを点検し、もつれている場合はイメージングコアを完全に引っ込めること。イメージングウインドウが可能な限りまっすぐであるように、シースの位置を調整してから、モータドライブ・ユニットを再起動し、イメージングコアを再度進める。
- (3) システムメニューに本品が表示されない場合は、手技を進める前に弊社担当者に連絡すること。
- (4) イメージング中に画像が不鮮明になった場合は、ディスタルルーメン又はカテーテル本体に気泡が入っている可能性がある。【使用方法等】1. 使用前の準備(4)、(5)の手順でブラッシュを繰り返し行う。ブラッシュは必ず体外で行うこと。
- (5) ブラッシュを行っても元のような画像に復帰しない場合は、ドライブケーブルに不良が生じているか、又はモータドライブ・ユニットの接続が外れている可能性がある。イメージングを中止し、ハブがモータドライブ・ユニットに完全に接続されているか確認する。ハブがしっかりと接続されているにもかかわらずこの状態が続く場合は、カテーテルを抜去する。モータドライブ・ユニットを再起動させて、イメージングコアが回転していることを目視確認する。回転していない場合には、点検調査のためそのカテーテルを弊社まで返送すること。
- 別のカテーテルで試す前にカテーテル・シミュレータをモータドライブ・ユニットに接続して、モータドライブ・ユニットとシステムがカテーテル・シミュレータを認識するか確認すること。カテーテル・シミュレータが認識されない場合は弊社担当者に連絡すること。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

- (1) 本品を前進又は後退させる際には、必ずエックス線透視下で観察しながら行うこと。[血管損傷又は合併症の原因となり得る。]
- (2) シリンジ内のヘパリン加生理食塩液をフラッシュすることで確実にアセンブリ(シリンジ、ストップコック、延長チューブ)から完全に空気を抜くこと。
- (3) プライミングやフラッシュを行う際は、過度の圧力を加えないこと。[本品が破損したり、モータドライブ・ユニット内部にヘパリン加生理食塩液が入り込み故障する可能性がある。]
- (4) 画像が消えた場合は、トラブルシューティングを参照すること。
- ** (5) 本品を挿入するときは、モータドライブ・ユニットを「オフ」にすること。[モータドライブ・ユニットを「オン」の状態で本品を挿入すると、カテーテルのねじれ、損傷等を生じる可能性がある。]

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- (1) 本品を挟む、押しつぶす、ねじる、折り曲げることは、いかなる場合も行わないこと。[カテーテルの性能低下や血管の損傷、さらには合併症を引き起こす危険がある。45°を上回る挿入角度は不適切であると考えられる。]
- (2) 抵抗を感じた場合には、カテーテルを先に進めないこと。カテーテル本体より細いルーメンにカテーテルを挿入したり、高度狭窄部に無理に通過させようとしないこと。[カテーテルを進めるとカテーテルが破損するおそれがあり、血管の損傷又は合併症に至ることがある。]
- (3) ステントが留置されている血管にカテーテルを挿入する際、カテーテルのモノレール部とガイドワイヤが同軸でないとカテーテルとガイドワイヤの隙間にステントが入り込むことがある。[カテーテル／ガイドワイヤの引っかかり、カテーテル先端部の分離、及び／又はステントの位置がずれるおそれがある。]
- (4) 本品を抜去する際に抵抗が感じられた場合には、その後システム全体を同時に抜去すること。[カテーテルを無理に抜去すると血管損傷又は合併症を引き起こすおそれがある。]
- (5) ステント留置後に再度ガイドワイヤを挿入する際は、ガイドワイヤがステントストラットを通過していないことを確認すること。ガイドワイヤがストラットの間を通過している場合は、カテーテルを挿入しないこと。[ステントと再交差する際に、ガイドワイヤが1つ又は複数のステントストラットの間から突き出してしまうことがある。引き続きカテーテルを進めようすると、カテーテルとステントとの間にもつれが生じ、この結果カテーテル／ガイドワイヤの引っかかり、カテーテル先端の分離、及び／又はステントの位置ずれが生じる可能性がある。ステントが留置されている血管内からカテーテルを抜去する際は慎重に行うこと。]
- (6) ステントが適切に留置されていない場合、ステントが重なつて留置されている場合、及び／又は遠位側に角度がある小さな血管にステントを留置した場合において、カテーテルを引き戻す際にカテーテルがステントに引っかかることがある。カテーテルを引き戻す際は、ガイドワイヤの遠位先端部がガイドワイヤと平行になっていることを確認すること。[ガイドワイヤが離断したり曲がったりすると、ガイドワイヤのねじれ、カテーテル端の破損、及び／又は血管の損傷を引き起こすことがある。ガイドワイヤがループ状になっていたり先端が破損したりしていると、ステントストラットによるガイドワイヤの引っかかりを誘発する。]
- (7) 複数回の挿入が必要な場合には、モータドライブ・ユニットから本品の接続を外さないこと。[本品の滅菌性を損なわないようにする為。]
- (8) モータドライブ・ユニットのモータの作動中に本品を接続し

- たりはずしたりしないこと。[コネクタが損傷することがある。]
- (9) 本品の遠位端にガイドワイヤを進めることができない場合は、本品を血管内に挿入する前にガイドワイヤエグジットポートに破損がないか点検すること。[ガイドワイヤエグジットポートが破損したままで使用すると、カテーテルの前進や後退の際に抵抗を感じることがある。]
- (10) ガイドワイヤのサポートがない状態で本品を前進させないと。[目的とする部位への到達が困難になったり、カテーテル遠位端がねじれたりする原因となる。]
- (11) 本品の遠位端をガイドワイヤ端の極めて柔軟な部位まで進めないこと。[本品で血管を損傷する可能性がある。ガイドワイヤのこの部分は、本品を十分にサポートすることができないため、ガイドワイヤに折れ、曲がりが生じ、本品の操作が出来なくなる可能性がある。この位置まで本品を進めてしまうと、ガイドワイヤを引き戻してもガイドワイヤに追随できないことがある。さらに、ガイドワイヤがループ状に曲がってしまい、本品がこれを血管内面に沿って引きずってガイドイングカテーテル先端部にからまることがある。このような状態となつた場合は、カテーテル、ガイドワイヤ及びガイドイングカテーテルと一緒に抜去する必要がある。カテーテルがガイドワイヤの先端チップに近接し過ぎている場合には、本品を動かないように保持しつつガイドワイヤを前に進める。困難な場合には、ガイドワイヤと本品を少し引き抜いてから、遠位部までガイドワイヤを進めるか、本品とガイドワイヤを一緒に引き抜くこと。]
- (12) 本品を前進又は後退させる場合は、必ずイメージングコアが遠位部の先端にある状態で行うこと。[カテーテルがねじれるおそれがある。]
- (13) 複数回の挿入によって、カテーテルのエグジットポートの大きさが変わったり歪んだりすることがあり、カテーテルがストントに引っかかりやすくなる。エグジットポートの損傷を防止するため、再挿入や抜去の際には十分注意すること。
- (14) 本品を抜去するときは、常に事前にモータードライブ・ユニットをオフにすること。[モータードライブ・ユニットが過負荷にならないようにする。]
- (15) 本品と接続する超音波画像診断装置は、電磁両立性(EMC)に関する特別の配慮が必要である。本品は装置に付随する文書に含まれる事項に準じて接続し操作する必要がある。
- (16) 携帯式及び移動式の無線通信機器は、本品と接続する超音波画像診断装置等の医用電気機器に影響を及ぼすことがある。

2. 不具合・有害事象

血管内のイメージングによって、以下の不具合・有害事象が起こりうる。事前に対処方法について確認しておくこと。
カテーテル手技に関連した血管内画像診断におけるリスク及び不快感を含む。リスク及び不快感は様々な頻度及び重篤度で起こりうる。加えてこれらの合併症は薬物療法や外科的処置が必要となり、まれに死亡に至ることがある。

- (1) 重大な不具合
- ① 外科的介入を要するデバイスの引っかかり
 - ② 本品の破損、離断
 - ③ カテーテルのねじれ
- ** (2) その他の不具合
- ① 画像不良
- (3) 重大な有害事象
- ① 死亡
 - ② 塞栓症(空気／異物／組織／血栓等)
 - ③ 脳血管障害／一過性脳虚血発作(TIA)
 - ④ 血栓症
 - ⑤ 解離、穿孔、仮性動脈瘤等を含む血管損傷
 - ⑥ 追加介入／外科的処置
- (4) その他の有害事象

- ** ① アレルギー反応(造影剤、機器等を含む)
 ② 出血／血腫
 ** ③ 低血圧／不整脈
 ** ④ 感染／敗血症
 ⑤ 虚血
 ** ⑥ 血管攣縮又は血管閉塞
 ** ⑦ 放射線障害

【保管方法及び有効期間等】

保管方法

1. 高温、多湿、直射日光を避けて保管すること。

2. 有効期間

2年

[使用期限を過ぎた製品を使用すると、製品の劣化により患者に危害が及ぶおそれがある。]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者:

ボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社

電話番号: 03-6853-1000

製造業者:

米国 ボストン サイエンティフィック コーポレーション

[BOSTON SCIENTIFIC CORP.]

お問い合わせ先:

ボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社

テクニカルサポートセンター

神奈川県横浜市神奈川区恵比須町1-1

株式会社サンリツ 京浜事業所内

電話番号: 0120-177-779(フリーダイヤル)